

だい じ さっぽろししょくいくすいしんけいかく あん たい
第3次札幌市食育推進計画（案）に対する
いけん さっぽろしやくしょ かんが かた
意見のまとめと札幌市役所の考え方
しょうがくせい ちゅうがくせい
（小学生・中学生のみなさんへ）



さっぽろしやくしょ
札幌市役所では、これからどのように「食育」に取り組んでいく
しよくいく と く
かを決めるために「第3次札幌市食育推進計画」の案を作り、平成29
き だい じ さっぽろししょくいくすいしんけいかく あん つく へいせい
年12月11日（月）～平成30年1月10日（水）までの30日間、市民
ねん がつ にち げつ へいせい ねん がつ か すい にちかん しみん
のみなさんから意見を募集しました。
いけん ほしゅう

このパンフレットは、110人の小学生・中学生のみなさんから寄せ
にん しょうがくせい ちゅうがくせい よ
られた意見の主な内容と、それに対する市役所の考え方をまとめた
いけん おも ないよう たい しやくしょ かんが かた
ものです。

さっぽろ しよくいく いっしょ かんが
これからも、札幌の食育について、一緒に考えていきましょう。



へいせい ねん ねん がつ
平成30年（2018年）3月
さっぽろしほけんじょ
札幌市保健所

寄せられた主な意見と市役所の考え方

第2章 前計画の取組と評価

4 札幌市の食育の現状と課題 について

みなさんのご意見

○札幌市民の現状（小学5年生の朝食摂取・野菜摂取量・小学5年生の共食）が全て目標値に届いていない。

（類似意見3件）

○朝食を毎日欠かさずとする小学5年生の割合が低く、おどろいた。生活習慣の改善を呼びかけ、みんなが朝食を毎日食べられるようになるとよい。

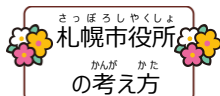
（類似意見8件）



札幌市ではこれまで、学校をはじめとして、保育所、幼稚園、各区保健センターなどで、朝食を食べること、野菜を食べること、みんなで楽しく食べる「共食」について呼びかけてきましたが、ご意見のとおり、全て目標値には届いていません。解決しなければならない問題として、今後も取組をすすめていきます。

みなさんのご意見

○最新のデータを入れたり、学年も入れるとよい。



札幌市民の現状については、現時点での最新のデータを使い、グラフにしています。特定の学年に限った調査なので、学年別のグラフにはできません。

第4章 施策の体系と展開

Ⅱ 施策の展開（行動計画） について

みなさんのご意見

○「食育」とは、小さなころからしっかりした食事をするのではないかと。計画を見たところ、保護者に対するアピールが少ないように思う。学校のみでなく、他様々な場でも食育をより活発に広めていただきたい。



がっこう きゅうしょく きゅうしょくししょくかいとう つか かてい しょうほうていきょう つと
 学校では、給食だよりや給食試食会等を使って、家庭への情報提供に努めます。ま
 た、ホームページや「学校給食展」において、引き続き、広く市民の皆様へ学校給食や
 食育の取組についての情報提供を行います。

ほいくしやとう こ しょくじ ていきょう ふく しょくいく こぞだ しえん きゅうしょく
 また、保育所等では、子どもたちへの食事の提供を含む食育と、子育て支援や給食だ
 り・展示食など保護者と日ごろから連絡を取り合い協力していく中で、より食育を推進して
 いきます。

かくく おこな にゅうようじけんしん ちい こ も ほごしゃ む まいにちちようしょく
 さらに、各区で行う乳幼児健診においても、小さな子を持つ保護者に向けて、毎日朝食
 を食べることなど望ましい食習慣について啓発しています。

こんご じっさい こうどう さまざま ばめん ほごしゃ はたら
 今後も、実際の行動につながるよう様々な場面で保護者に働きかけていきます。

いけん とりくみ ついか
 ☆意見をふまえて、32ページに取組を追加します。

てきせつ りょう えんぶんりょう まな きかい そうか
 ○適切なエネルギー量や塩分量を学ぶ機会の増加

とりくみ きゅうしょく きゅうしょくししょくかい つう ほごしゃとう けいはつ
 取組 給食だよりや給食試食会などを通じた保護者等への啓発

みなさんのご意見

○そうならない、できない理由まで深くつきつめる計画が少ない。例えば、朝食を欠食す
 る小・中学生は「朝食を食べないことが体や脳に良くない」ことを知らず、おそらく「朝
 は時間がない」「食欲がわからない」という理由があるのではないかと。では、いかにして朝の時間
 を増やすかという、その先の手段まで考えることが、この計画を推進するもっとも良い方法
 なのではないか。1人でも多くの人々が食事の時間を楽しめる社会になってほしい。



いけん もくひょうち たつ りゆう さく かたい かいけつ とりくみ おこな
 ご意見のとおり、目標値に達していない理由を探り、その課題を解決できるような取組を行っ
 ていく必要があると考えます。また、朝食を食べることのメリット（良い点）をもっと多くの
 人に知らせていく必要があると考えます。

へいせい ねんど おこな ちょうさけつ か ちょうしょく た もっと おお りゆう じかん
 平成28年度に行った調査結果から、朝食を食べない最も大きな理由が「時間がない」
 であったことから、手軽にできる朝食を広めるため、簡単レシピ集を作成しますが、朝食を
 食べることの大切さ（メリット）も盛り込みます。

こんご げんざい じょうきょう りかい とりよく こうかてき けいはつほうほう けんとう
 今後も現在の状況をしっかりと理解するよう努力し、さらに効果的な啓発方法を検討し、
 えがお ひろ まち しょくいく すず
 笑顔が広がる街づくりにつながる食育を進めていきます。

みなさんのご意見

○まずは多くの人に食育を身近に感じてもらい、興味・関心を持ってもらうことが大切だと
 思う。また、計画（食育の取組内容）があまり浸透していないため、この計画を多くの人に
 知ってもらえるような活動をすると思う。このパンフレットを読んでたくさん感じる
 ことがあったので、広めれば1人1人の意識が高まってより良い札幌になると思う。

るいじいけん けん
 （類似意見12件）

○食事の大切さを伝えるために、学校や市役所などで食に関する授業や講座を行うとよい。

(類似意見 3 件)

○食育をさらに広めるため、ビデオを作ったり、CMで簡単にわかる食育について公開したり、手軽に見ることのできるYouTubeをその広告に使うのはどうか。自分たちが参加できる取組や身近な食育を紹介するプリントなどを配るのも良い。

(類似意見 2 件)

○札幌市が食育について様々な取組をしていることが分かった。自分も参加したりサポートしたい。

(類似意見 2 件)



学校では、栄養教諭が中心となって教職員が協力し、給食時間や関連する教科において食に関する指導や授業を行っています。今後も充実するよう努めます。

また、より多くの市民の方々が食育に関心を持ち、健やかで豊かな食生活を送ることができるよう、保育所や幼稚園、地域のほか様々な場所で、食に関する知識を広め、その重要性を伝えていきます。

情報発信の方法に関するご意見については、今後の参考とさせていただきますが、ホームページにのせたり、わかりやすい概要版の作成・配布等を通じて、計画の内容や食育の取組を広めていきます。

第4章 施策の体系と展開

1 健やかで心豊かな食生活の実現

(1) 健康寿命の延伸につながる食育の推進 について

みなさんのご意見

○いろいろなライフスタイルがあるため、食事の時間や回数を決めることは難しいが、バランスよく食べることを心がけるべきだと思う。


(類似意見 2 件)

○毎日栄養バランスを考えてご飯を作るのは、とても大変だと思った。



栄養バランスのとれた食生活を広めるために、主食・主菜・副菜をそろえる食事の啓発、野菜をたくさん食べる取組等を進めていきます。

また、知識が実践につながるよう、レシピ集の作成・配布、料理講習会の開催等にも引き続き取り組んでいきます。

 **みなさんのご意見**

けいかく なか がっこうきょういくかつどう ぜんたい とお ちょうしょく たいせつ つた しょくしどう
○計画の中の「学校教育活動の全体を通して朝食の大切さなどを伝える食指導をすすめる」取組を増やしていけばよいと思う。


がっこう ちょうしょく たいせつ か くば なつ ぶゆやす ちょうしょく た しら
○学校で朝食の大切さなどを書いたファイルを配ったり、夏・冬休みに朝食を食べたか調べるチェック表を配るとより効果的だと思う。

ちょうしょく た がっこう しょうてんがい よ よ
○朝食を食べてもらうために、学校はもちろん、スーパーや商店街などでも呼びかけると良い。

るいじいけん けん
(類似意見 1 件)



がっこうきょういくかつどうぜんたい とお ちょうしょく たいせつ のぞ しょくしゅうかん けんこう
学校教育活動全体を通して、朝食の大切さをはじめ、望ましい食習慣や健康づくりなど
とりくみ ひ つづ すす
の取組を引き続き進めていきます。
こんご いけん さんこう しょうきょうざい けいはつりょう けいはつばしょ くふう
今後も、ご意見を参考とさせていただき、指導教材や啓発資料、啓発場所についても工夫
をし、充実するよう努力します。

 **みなさんのご意見**

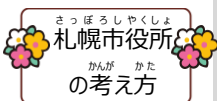
さっぽろし しょう ちゅうがくせい うんどうりょう すく やさいせっしゅりょう ふそく ひまん
○札幌市の小・中学生は運動量も少なく野菜摂取量も不足しているため、肥満にもつなが
ると思う。野菜や果物の摂取量を増やす活動をさらに活発化して欲しい。

るいじいけん けん
(類似意見 1 件)

やさいせっしゅりょう もくひょうりょう ちゅうがくせい グラムじょう りょう た むすか
○野菜摂取量の目標量が中学生から350g以上だが、バランスよく量を食べるのは難しい
と思う。

よ ちょうないかい かいらんばん なか やさいせっしゅ やさい た
○ポスターも良いが、町内会の回覧板の中に野菜摂取のメリットや野菜を食べなければどう
なるかなども伝えるプリントを入れると良いと思う。

るいじいけん けん
(類似意見 1 件)



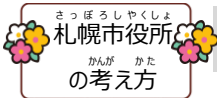
がっこうきゅうしょく しょく かん しどう とお やさい た ひつようせい やさい
学校給食や食に関する指導を通して、野菜を食べることの必要性や野菜をバランスよくと
くふうとう つた
る工夫等について、伝えていきます。
けいはつほうほう ぐたいてき いけん こんご さんこう
また、啓発方法の具体的なご意見は、今後の参考とさせていただきます。

わか せだい ちゅうしん しょくいく すいしん
(2) 若い世代を中心とした食育の推進 について

 **みなさんのご意見**


こうがくねん ちゅうがくせい む しょくいきたいけん りょうりきょうしつ ふ おやこりょうりきょうしつ
○高学年や中学生向けの食育体験や料理教室などを増やしてほしい。また「親子料理教室」
だけでなく「兄弟」や「友達」などを対象とした料理教室も開いて欲しい。

るいじいけん けん
(類似意見 1 件)



いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。

たよう く たいおう しょくいく
(3) 多様な暮らしに対応した食育 について

 みなさんのご意見

きょうしょく だいじ たの しょくじ ば ひとり
○共食を大事にしたい。楽しく食事をする、またコミュニケーションの場として、1人っ
きりしょくじ と ひとりでで食事をするのと複数人で食事をするのでは、気持ちの面で全く違う。

るいじいけん けん
(類似意見 4 件)

しょくじ かぞく ほう かくかてい ちゅうい
○食事は家族とした方がよい。各家庭でもっと注意をしてほしい。

るいじいけん けん
(類似意見 1 件)

じだいはいけい ともばたら かてい おお かてい じしょう ちゅう こうこうせい じゅく ぶかつ
○時代背景として、共働きの家庭が多いなど家庭の事情があったり、中・高校生は塾や部活
いそが しょくじ と きょうしょく むすか ばあい てがる ちょうり しょくひん かいはつ ひつよう かん
で忙しいので、共食が難しい場合もある。手軽に調理できる食品の開発も必要だと感じ
た。

るいじいけん けん
(類似意見 1 件)

かぞく ともだち いっしょ しょくじ ころろが きょうしょく きかい ぶ
○できるだけ家族や友達と一緒に食事をするのを心掛け、共食をする機会を増やすこと
たいせつ がっこうきょうしょく ほんたいけい きょうしょく ぶ おも
が大切。学校給食で班隊形にすることも共食を増やしていくことになると思う。

るいじいけん けん
(類似意見 1 件)



ごいけん かぞく しょくたく かこ とも しょくじ
ご意見のとおり、家族が食卓を囲んで共に食事をとりながらコミュニケーションをとることは
しょくいく げんてん たいせつ かんが
食育の原点であり、大切なことだと考えています。

く かた しゃかい かんきょう へんか ひとりく おやかてい ぶ かていせいかつ
しかし、暮らし方や社会の環境が変化し、一人暮らしやひとり親家庭などが増え、家庭生活
じょうきょう さまざま わ なか かぞく きょうしょく むすか ひと ぶ
の状況が様々に分かれる中、家族との共食が難しい人も増えています。


かぞく ゆうじん しょくば なかま ちいき ひと きょうしょく きかい ぶ
家族はもちろん、友人や職場の仲間、地域の人などの共食の機会が増え、コミュニケー
ゆた しょくだいけん さまざま きかい つう きょうしょく けいはつ きょうしょく ば
ションや豊かな食体験につながるよう、様々な機会を通じて共食の啓発・共食の場の
じょうほうていきょう おこな
情報提供を行っていきます。

しりつ しょうちゅうがっこう きょうしょく こ しょくじ まも ともだち かいわ たの
また、市立の小中学校の給食では、子どもたちが食事のマナーを守り、友達との会話を楽
しょくじ かわ かた ぶ ふう た がつきゅう た がくねん
しみながら食事ができるように、座り方を工夫したり、ランチルームで他学級、他学年との
こうりゆうきょうしょく おこな しょくじ たいせつ た よろこ たの かん
交流給食を行ったりしています。これからも、食事の大切さや食べる喜び、楽しさを感じら
きょうしょく
れる給食になるようにしていきます。

だい しょう しさく たいけい てんかい
第4章 施策の体系と展開

しょく じゅんかん かんきょう あんぜん いしき しょくせいかつ
2 食の循環や環境・安全を意識した食生活

かんきょう はいりょ しょくせいかつ すいしん
(1) 環境に配慮した食生活の推進 について

 みなさんのご意見

かつどう よ おも つづ
○フードリサイクルの活動はとても良いと思うのでこれからも続けてほしい。

るいじいけん けん
(類似意見 2 件)

○フードリサイクルや生ごみ減量の取組をもっとたくさんの人に知ってもらい、少しでも食べ残しが減ってほしい。

○年間に2万3000tもの食品ロスが生まれているので、もっと食べ物に感謝し、大事にするべきだと思う。



「さっぽろ学校給食フードリサイクル」の取組は、生産者の方をはじめ多くの関係団体のみなさまきょうりょくをいただき実施している事業あり、今後も続けていきます。また、この事業をホームページや出前講座、給食試食会、リーフレット（啓発資料）の配布等、様々な機会において広く市民に啓発していきます。

また、食品ロスを減らすことは、ごみとしての観点だけではなく、食育や環境教育といったさまざまな観点から取り組むことが重要であると考えています。そのため、食育を通じて食べ物に感謝し、大事にする心を育てていきたいと考えています。

みなさんのご意見

○野菜などの捨てる部分を使った料理の紹介が見たい。



札幌市ホームページで「生ごみダイエットレシピ」を紹介しているほか、公式Facebookページ「さっぽろコミュニケーション」内で、余りがちな食材を使用したレシピや使いきりレシピなどを紹介しています。野菜の皮などの捨てる部分を使用したレシピもせていますので、ぜひご覧ください。

(2) 「食」の安全・安心の確保の推進 について

みなさんのご意見

○食品の安全性に関する知識のある市民の割合が低いので、さっぽろ子どもGメン体験事業や食の安全や衛生についての啓発、講習会を開くなど、知る機会を増やすと良いと思う。

(類似意見1件)




知る機会の充実のため、これまで、子ども向けの「さっぽろ子どもGメン体験事業」のほか、一般向けに農家や食品工場などの見学を行う「さっぽろ食の安全・安心市民交流事業」などの事業を行っています。

また、さっぽろ子どもGメン体験事業については、エコチル（子ども環境情報誌：市内公立小学校で毎月配布）を活用して、広く参加者の募集や事業紹介を行っています。

ご意見を参考に、今後も事業の充実をはかり、知る機会を増やしていきます。

のうぎょう みちか と し かんきょう じつげん
(3) 農業を身近に感じる都市環境の実現 について

 みなさんのご意見

○食に関する感謝の心を深めるため、農業・漁業に関わる仕事への関心を高めるような活動（親・子供に）を、もっと身近な場所で行って欲しい。

○小学生等が「農」から少しずつ離れてきていると感じた。「子ども学習農園」で「農」にふれ、そこで食育学生ボランティアの力も借り、小学生に食育について説明することで、もっと食育に対して興味を持ってもらうことができるのではないかと思う。

○『若い世代に対する「農」体験の啓発』に関して、幼児や小学校低学年向けの体験はかなりの多く思えるが、高学年・中学生向けの体験が少ないと思う。




農業・漁業への関心を高める活動を身近な場所で行うことが大切であると考えています。札幌市のような大都市の場合、農業に触れる機会が少なくなりがちなため、多くの方々への農業体験交流施設「さとらんど」へ来ていただけるように取り組んでいきます。農業体験交流施設「さとらんど」では、小さなお子様からお年寄りの方まで幅広い世代の方々へ農業体験をしていただけるので、学校などへの情報提供を続けていきます。また、「子ども学習農園」についても、より多くの方々へ利用していただけるよう広く知らせていくとともに、学校などへの情報提供を続けていきます。

だい しょう しさく たいけい てんかいは
第4章 施策の体系と展開

しょくぶんか けいしょう しょくいくすいしんたいせい せいび
3 食文化の継承と食育推進体制の整備

しょくぶんか けいしょう しょくかんきょうせいび
(1) 食文化の継承と食環境整備 について

 みなさんのご意見

○伝統的な食文化は、その場所と何の関係があるかなどを伝えると良い。小学生はおそらく北海道産の食品は関係ないと思っているので、北海道食品の良さを伝えると良いと思う。

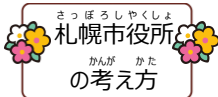
○普段家で郷土料理など食べることがないので、学校でこのような機会があってもうれしい。



伝統的な食文化の知識を深める食育を進めます。また学校給食では、今後も地産地消の取組や、日本や地域を学ぶ献立を多く取り入れ、北海道産食品のよさや郷土料理などの食育に努めていきます。

みなさんのご意見

○学校におけるアレルギー対応では、アレルギーを持つ児童への対応だけでなく、周りの子にも指導するべきだと思う。特に小学校低学年の子供はアレルギーの子を見て「なんであの子だけちがうの？」と疑問を持つので『学校全体』という曖昧な表現ではなく、『児童を含め、学校全体』とするとよくなると思う。



「学校全体」には、児童生徒も含まれます。
今後も、食物アレルギーを持たない児童生徒の理解も深められるよう努めていきます。

(2) 「さっぽろ食スタイル」の推進 について

みなさんのご意見

○さっぽろ食スタイルを初めて知った。素晴らしいプロジェクトなので全道民に知ってもらいたい。



「さっぽろ食スタイル」は、第2次札幌市食育推進計画を定めたときから提案し、広めてきたさっぽろしどくじと取り組みですが、「初めて知った」とのご意見のとおり、まだまだ市民に浸透していません。

まずは、より多くの市民がこの「さっぽろ食スタイル」について理解を深め、栄養バランス・ちさんちしょうかんきょうはいりよしょくせいかつじっせんいっしょとく地産地消・環境に配慮した食生活を実践できるよう、一緒に取り組んでいきましょう。

みなさんのご意見

○地元の食材が野菜などであれば買う人もいるが、精肉などは安い外国産を買う人が多いと思う。



ご意見のとおり、品目や時期によっては、地元産の食材が手に入らない、または外国産の方が安く買える場合もあり、必ずしも札幌産や北海道産の食材を利用できるとは限りません。しかし、特に20～30歳代の若い世代は、半数以上が、自分がどれくらい地元産食材を利用しているか「わからない」と回答しており（本書26ページ、図31）、産地にこだわらず食品を選んでいるようです。これらのことから、地産地消に対する意識を高めていくことが必要と考えます。

第5章 計画の推進

1 計画の推進にあたっての指標 について

みなさんのご意見

○指標に対する目標値が少し高いので、少しずつ上げた方が良いと思う。現状値が目標値に対してどれだけ足りていないのかも書いた方が良い。

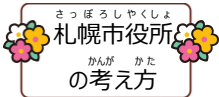


この計画の指標の目標値は、国の「第3次食育推進基本計画」や、札幌市健康づくり基本計画「健康さっぽろ 21（第二次）」など、関連する計画の考え方に基づいています。計画の最終年となる2022年度に向けて、目標値を達成できるよう、取り組んでいきたいと思えます。

現状値と目標値の記載方法については、今後、計画の内容を広めていく際に、年代等に合わせたわかりやすい内容とするための参考とさせていただきます。

みなさんのご意見

○目標を達成するにはどういふことをすればいいかを書くと良い。



計画本書では、目標を達成するために札幌市の関係する部署が今後取り組んでいく内容をより細かく書いています。

みなさんのご意見

○朝食を食べることで気分を悪くしてしまう人や朝遅く起きて朝食を食べない人がいるため、朝食を欠食する子どもを0%にするのは難しいと思う。



朝食を食べることは生活習慣とも強い関係があり、早寝早起きなど毎日の生活リズムを整えること、まずは飲み物や果物だけでも口にする習慣をつけることが必要です。

小学生の朝食欠食率を下げるためには、朝食の大切さについて、保護者や子どもたち自身に、繰り返し伝えていく必要があると考えます。

みなさんのご意見

○計画推進における役割では、やるべきことと期待することが明確に記されていたのが良い。家庭や学校などの役割では「食」に対する関心や大切さなどはどのようにして深めていくのか、具体例を見てみたかった。



学校における具体的な取組は、計画本書により細かく書いていますので、興味があれば読んでみてください。

家庭での食育の具体例については、今後、様々な場面で分かりやすく情報発信してきたいと思えます。

計画全体 について

みなさんのご意見

○子どもにも読みやすい、興味を引く内容（例：給食キャラクター、クイズ、4コママンガ）やレイアウトにしてほしい。

（類似意見22件）

○嫌なイメージの言葉（〇〇してはいけない）ではなく、良いイメージの言葉（〇〇するといい）を多くすると良い。

○キャラ弁の作り方をのせると良い。
（類似意見 4 件）

○朝食おすすめメニューなどをのせてもよいのでは。

○これからは野菜をしっかりと食べるよう意識したいので、野菜をたくさん食べられるメニューが知りたい。



小・中学生向けの資料作成の際には、いただいたご意見を参考にさせていただき、分かりやすく、興味を引く内容となるよう努力します。

また、朝食おすすめメニュー、野菜がたくさん食べられるメニュー、塩分の少ないメニューなどのレシピ集は、市ホームページや各区のホームページにのせていますので、ぜひご覧ください。

その他 について

みなさんのご意見

○食についての学び、気づきがあった。今後自身や家族の食生活を見直したり、自分たちにできる食育を実践したい。
（類似意見 56 件）

○資料がわかりやすかった。
（類似意見 4 件）



市民一人ひとりが「食」に関心を持ち、積極的に「食育」を推進していくことが、この計画を進めていくポイントと考えます。

今後も、より多くの市民の方々に役立つ情報の発信に努めていきます。皆さんもぜひ一緒に取り組んでいきましょう。

資料の配布・公開について

このパンフレットのほかに、第3次札幌市食育推進計画の詳しい内容が書かれた冊子や、大人も含め、寄せられた意見をまとめた資料を、市役所、区役所、まちづくりセンターなどで配布しています。

また、市役所のホームページでも公開しています。

第3次札幌市食育推進計画のページ

<http://www.city.sapporo.jp/hokenjo/syokuiku/keikaku/dai3zikeikakuann.html>

大人の皆様へ

平成29年12月から平成30年1月まで、第3次札幌市食育推進計画（案）に対する意見を募集しました。この資料は、小・中学生から寄せられた意見の概要と、それに対する札幌市の考え方について報告するものです。

ぜひ、お子様と一緒に読みください。



＜お問い合わせ先＞

札幌市保健所健康企画課

〒060-0042 札幌市中央区大通西19丁目WEST19 3階

TEL：011-622-5151 FAX：011-622-7221

Eメール：syokuiku@city.sapporo.jp

市政等資料番号
01-F06-17-2421